

《報告》

看護行為の説明や意思確認実施に関する研究  
—看護師のインフォームド・コンセントに関する  
知識向上の経験との関連について—

中神 友子<sup>1)</sup>, 市川 誠一<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 相山女学園大学看護学部看護学科, <sup>2)</sup> 名古屋市立大学大学院看護学研究科

要 旨

【目的】 インフォームド・コンセント（以下I.C.）に関する知識の入手や知識向上の機会といった経験と臨床看護師が患者に行う看護行為の「説明」「理解確認」「決定を待つ」「意思確認」の4項目を行うこととの関連性を明らかにすることとした。【方法】 市内病院の一般病棟に勤務する看護師334名を対象に、自記式質問紙調査を実施した。【結果】 I.C.の知識向上の機会がある者は164名（62.4%）、I.C.の知識向上の場を学校の講義と回答した者は107名（65.2%）、臨床の場が75名（45.7%）、専門書・雑誌が73名（44.5%）、研修会が58名（35.4%）であった。12種類の看護行為全てにおいて、「説明」「理解確認」「決定を待つ」「意思確認」4項目の全てを実施している看護師は、I.C.の知識向上の機会を有した割合が有意に高かった。看護師のI.C.の知識向上の場は、学校の講義が最も多かった。【結論】 I.C.の知識向上の機会がある看護師は、「説明」「理解確認」「決定を待つ」「意思確認」4項目の全てを実施している割合が有意に高かった。このことから、看護基礎教育におけるI.C.に関する教育が重要であると共に、I.C.の知識を向上させる研修などは、臨床看護師が「説明や意思確認」を実践するうえで有効であることが示唆された。

キーワード：看護行為, 説明, 意思確認, インフォームド・コンセント, 看護師